2016年３月期　第２四半期
決算説明会資料

2015年11月10日

パンチ工業株式会社

（証券コード:6165　東証第一部）

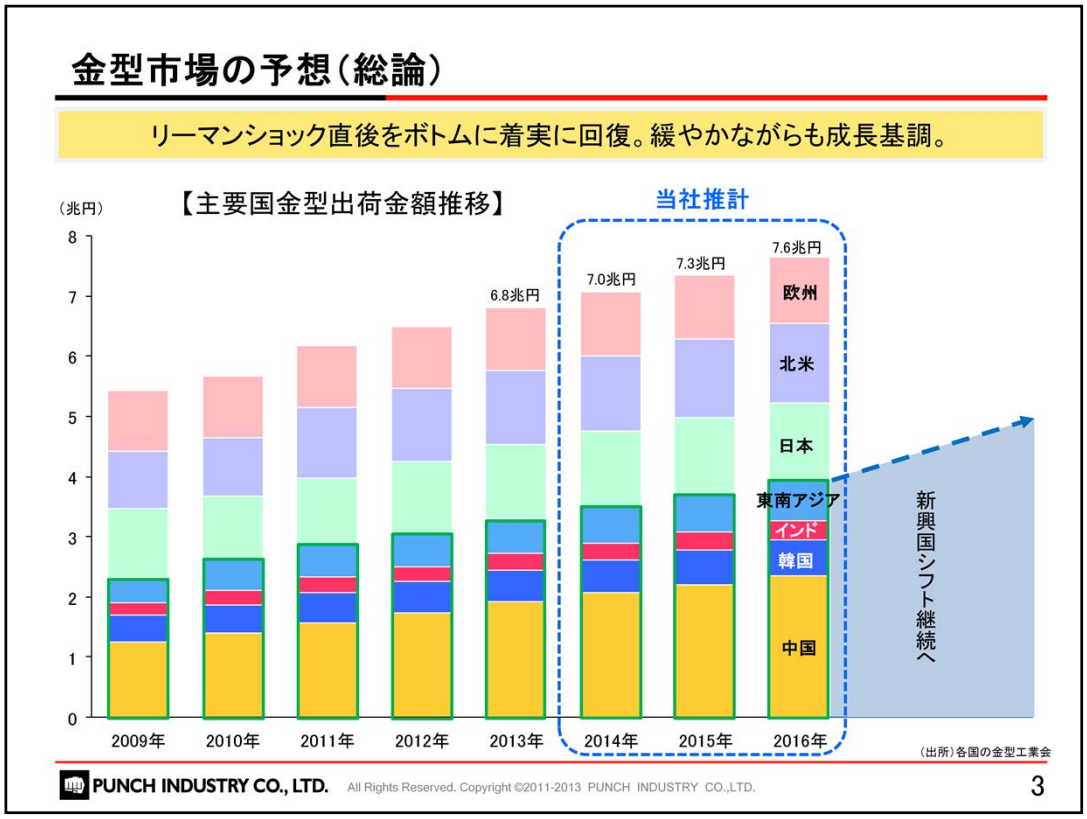
PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

本日の内容

1. 経営環境
2. 2016年３月期　第２四半期決算概況
3. 中期経営計画
   「バリュークリエーション１５」の進捗
4. 2016年３月期　業績予想
5. 参考資料

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

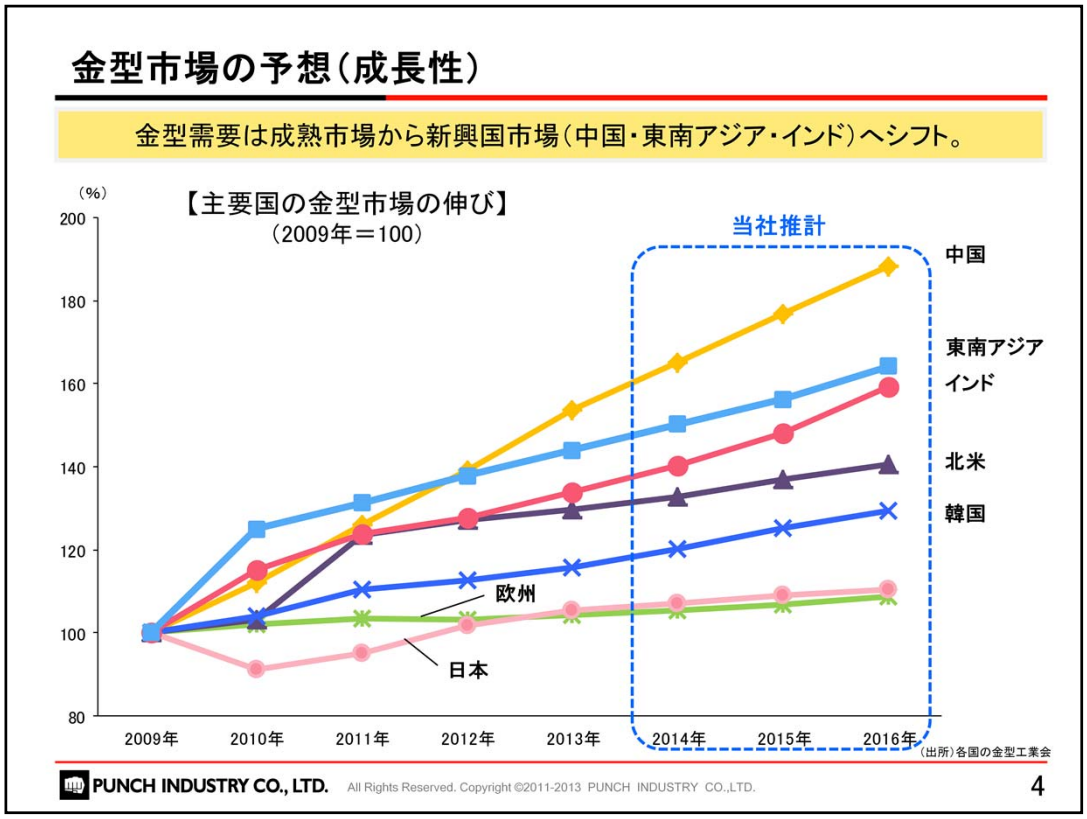
□経営環境についてです。



□金型市場の動向です。

□リーマンショック直後の2009年を底に、その後、中国を中心とした新興国が牽引車となって着実に回復しており、足元で中国の景気減速を発端とする世界経済の先行き不透明感はあるものの、今後も中長期的には緩やかな成長基調が見込まれています。

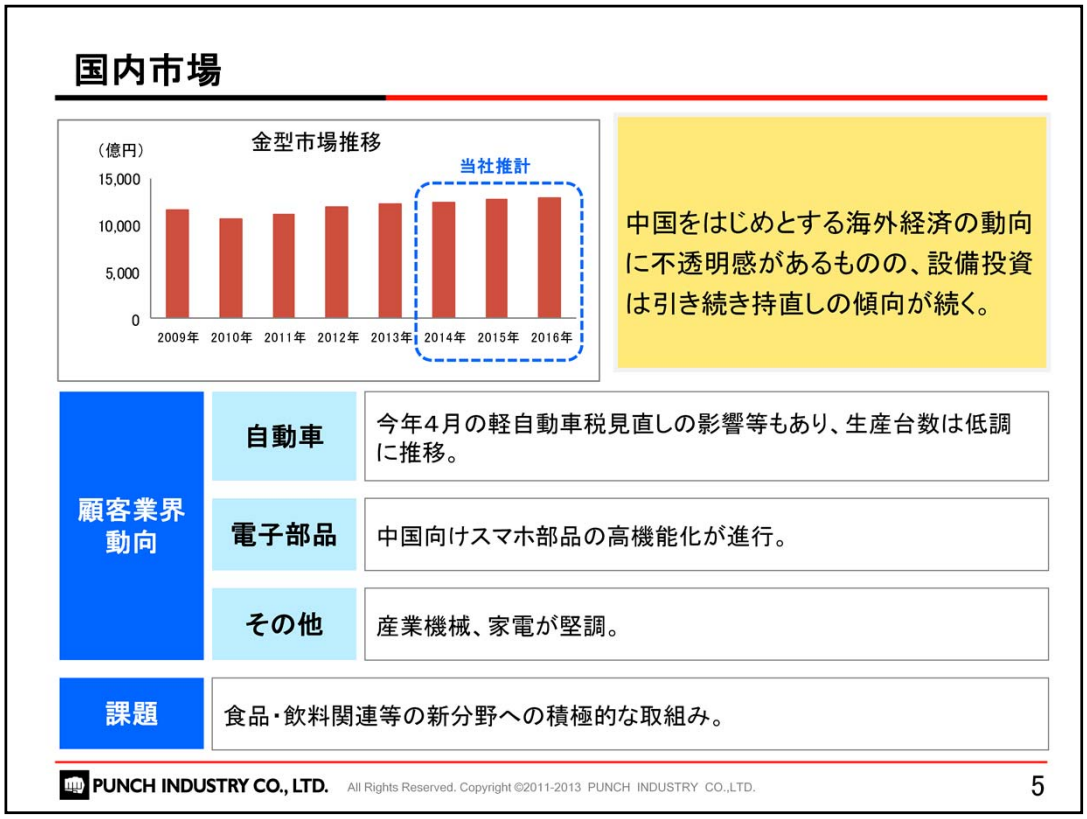
□金型部品の市場規模としては、金型市場規模の約7%レベルと考えており、
現在進行中の2015年は金型市場が7.3兆円、
金型部品市場はその7%の5千億円と見ています。



□リーマンショック直後の2009年を100とした各国毎の金型市場の伸びを示したものです。

□金型需要は日本、欧州といった成熟市場から新興国市場にシフトしており、ここでの事業拡大が大きな課題となっています。

□このような業界動向も踏まえ、パンチグループが事業を行っております、日本、中国、そして東南アジア・インドについて、それぞれの状況と、パンチグループの考え方についてご説明します。



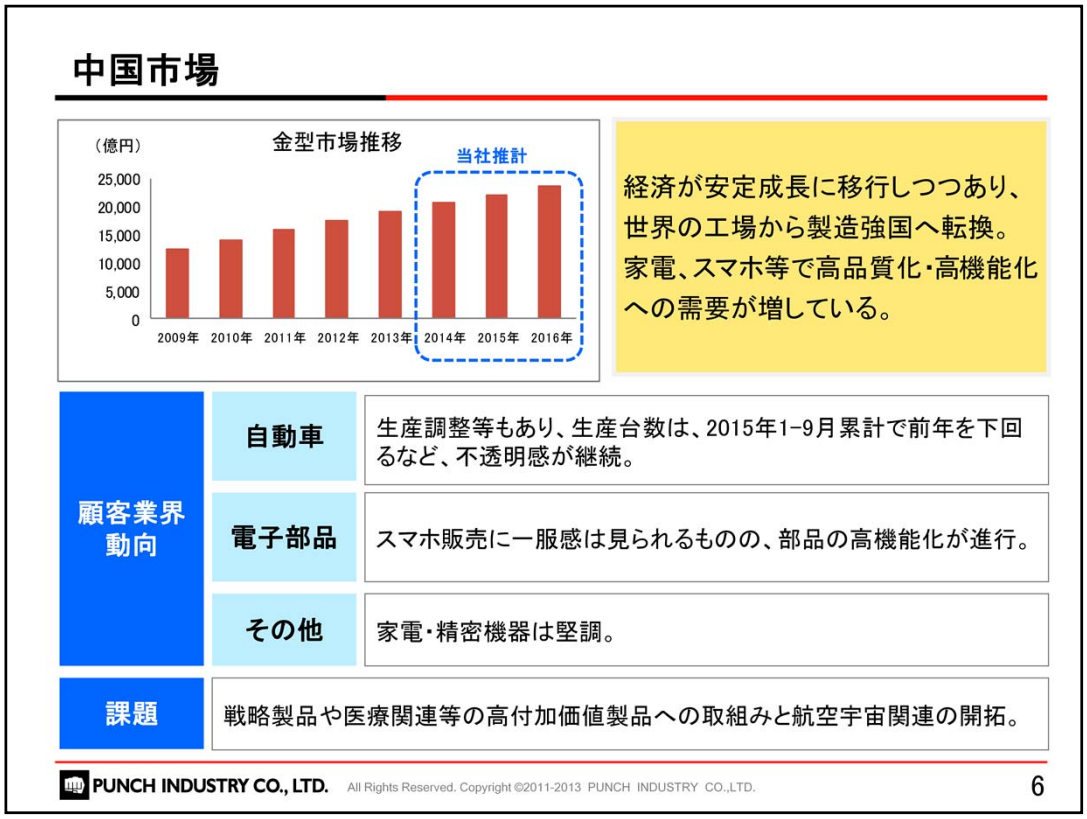
□国内市場です。

□2015年の金型市場規模としては1.2兆円で微増傾向と見ています。

□スマートフォンの高機能化、自動車の電装化等が進むにつれ、金型市場構造も変化し、従来以上に超精密、超小型といった高付加価値製品へのニーズが高まると見ています。当社としては、今まで以上に、これらのニーズに的確に応えていくことが大きな課題であると認識しています。

□国内においては、これらのニーズに応えていくための積極的な設備投資等を行い、「難しいもの」「付加価値の高いもの」へ挑戦すべく、研究開発体制の強化や生産現場改革を進めています。

□3Dプリンターの取組みについても、従来から取組んでいる「金属光造形」の技術に更に磨きをかけるとともに、お客様ニーズにお応えできる新たな取組みの検討を開始しました。

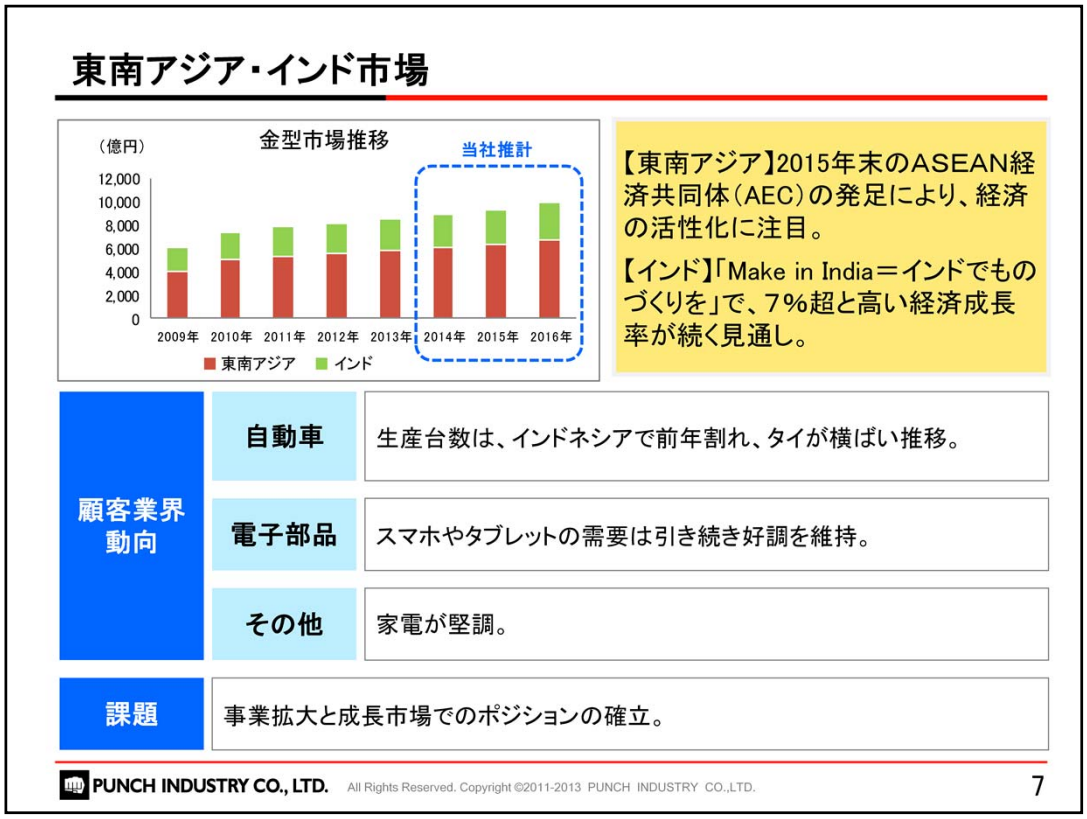


□中国市場です。

□足元で中国経済の減速感が強まってきており、先行き不透明感があるものの、中国経済は安定成長に移行しつつあります。そもそも巨大市場でもあるので、戦略製品や医療関連等の高付加価値製品への取組み、新分野の開拓などで、当社にもチャンスがあると考えています。

□中国が製造強国へ転換を目指していくと、金型用部品も日本国内同様に、超精密、超小型など高付加価値化していくと考えており、中国においてもやはり技術力が物を言う時代となれば、当社にとってもビジネスチャンスであると考えています。

□ここ数年、中国グループは高付加価値製品への取組みを積極的に進めてきました。また、航空宇宙産業分野への参入を視野に入れることもできつつあります。昨年４月からスタートした日中連携による研究開発体制も着実に効果が現われており、これらの取組みを更に強化します。



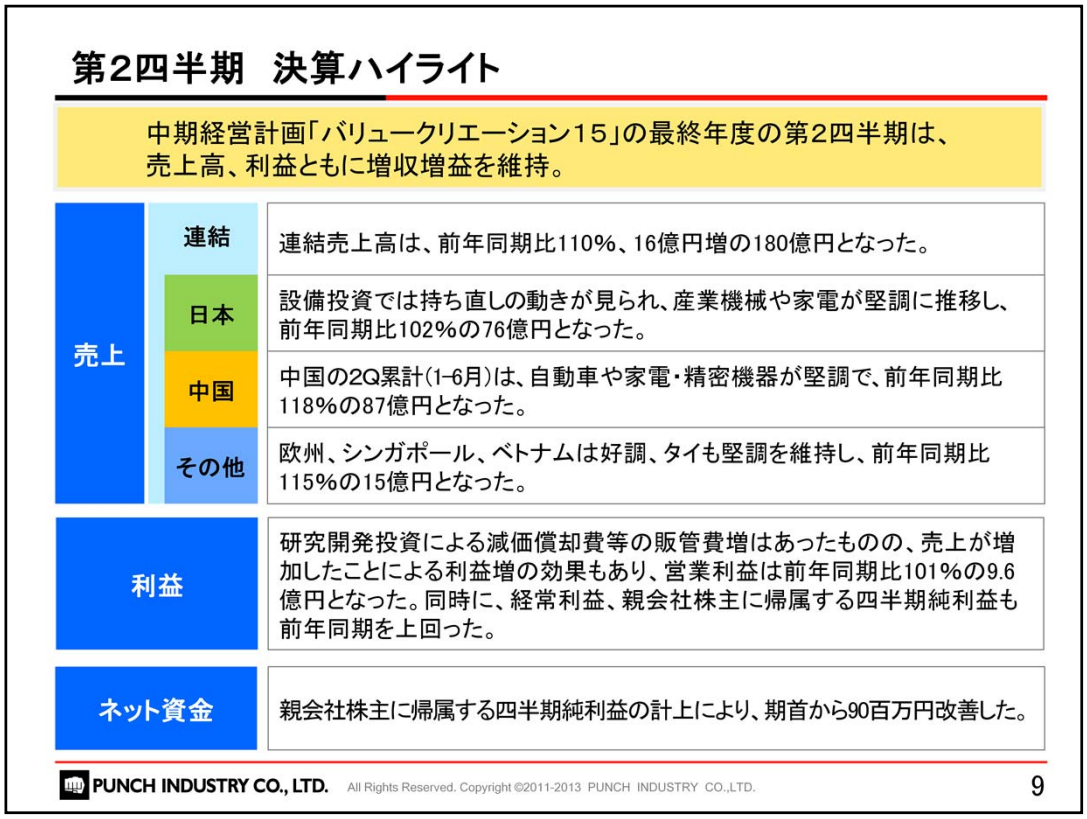
□東南アジア・インド市場です。

□2015年12月にASEAN経済共同体（AEC）が発足することで、経済が活性化し、金型の集積度も高まり、金型市場規模も更に拡大していくと見ています。

□東南アジアついては、市場における当社ポジションを確立することが課題であると認識しています。例えば、ベトナムは、高い成長率を維持しており、今後TPPに参加することで更なる経済拡大が期待されており、2016年10月稼働予定のベトナム新工場より当社の強みである製販一体のビジネスモデルを更に押し進めます。

□インドは、モディ政権の外資製造業を積極的に誘致するための「Make in India（インドでモノづくりを）」構想により、様々な企業がインドへ本格的に進出する兆しが見えつつあるため、金型市場の集積も徐々に進むと考えており、当社も幅広い業種のお客様にお取引き頂けるよう引き続きじっくりと取組みます。

□2016年３月期　第２四半期の決算概況です。



□2016年３月期　第２四半期の決算ハイライトです。

□国内売上は、第１四半期に引き続き設備投資で持ち直しの傾向が続いており、
産業機械や家電が堅調に推移しました。

□連結に組込まれる中国の第２四半期累計（1-6月）は、自動車を中心に家電・
精密機器が堅調でした。

□その他の地域では、欧州、シンガポール、ベトナムが好調でした。

□グループ全体では、増収増益を確保することができました。

□ネット資金は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上などにより、最終的に
は期首から９千万円の改善となりました。

決算概況

売上高及び各段階利益ともに前年同期実績をクリア。

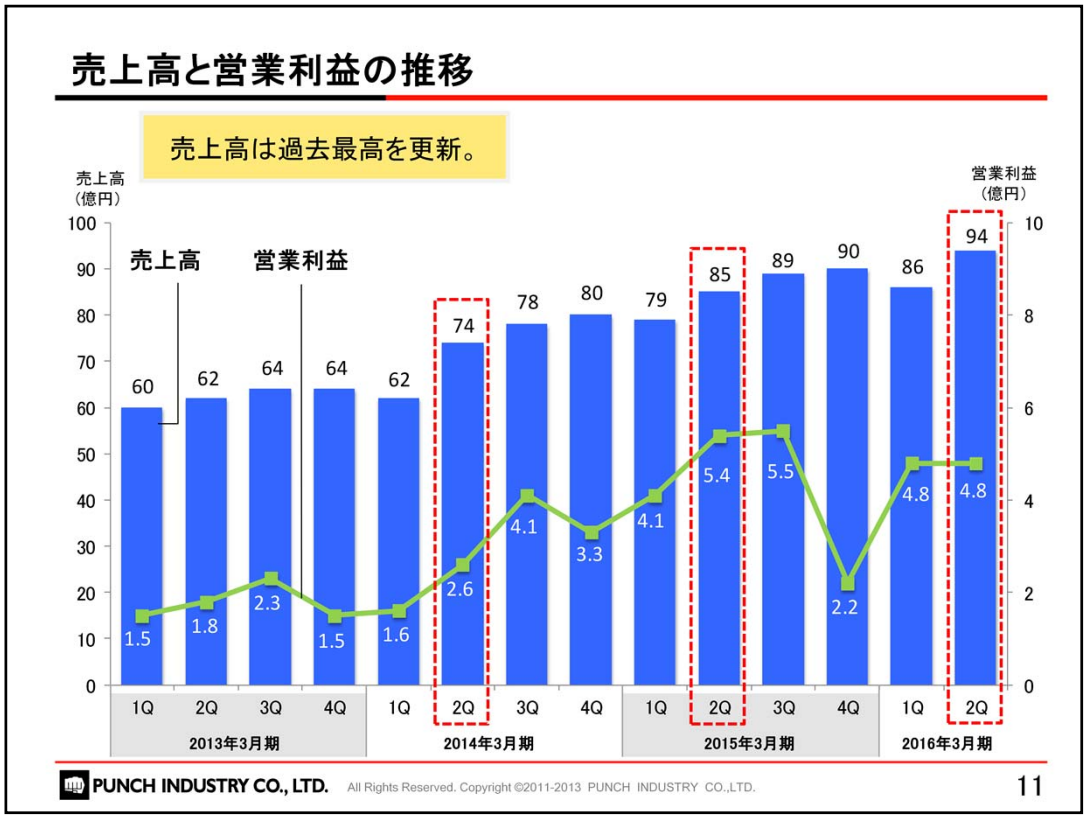
（単位：百万円）

	2015年3月期 第2四半期累計 実績		2016年3月期 第2四半期累計					
			期初予想 (5/8公表)		実績		前年同期差 (前年同期比)	期初予想差 (期初予想比)
売上高		16,350		18,000		18,030	1,679 (110.3%)	30 (100.2%)
営業利益	5.8%	950	5.3%	960	5.3%	960	10 (101.1%)	0 (100.1%)
経常利益	5.2%	851	5.1%	910	5.2%	931	79 (109.4%)	21 (102.4%)
親会社株主に帰属する四半期純利益	3.9%	644	3.6%	650	4.0%	723	79 (112.4%)	73 (111.4%)

PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

□決算数値の概要です。
売上高は180億円で、前年同期比110%、16億円の増収となりました。
営業利益は9.6億円、
経常利益は9.3億円、
親会社株主に帰属する四半期純利益は7.2億円となりました。

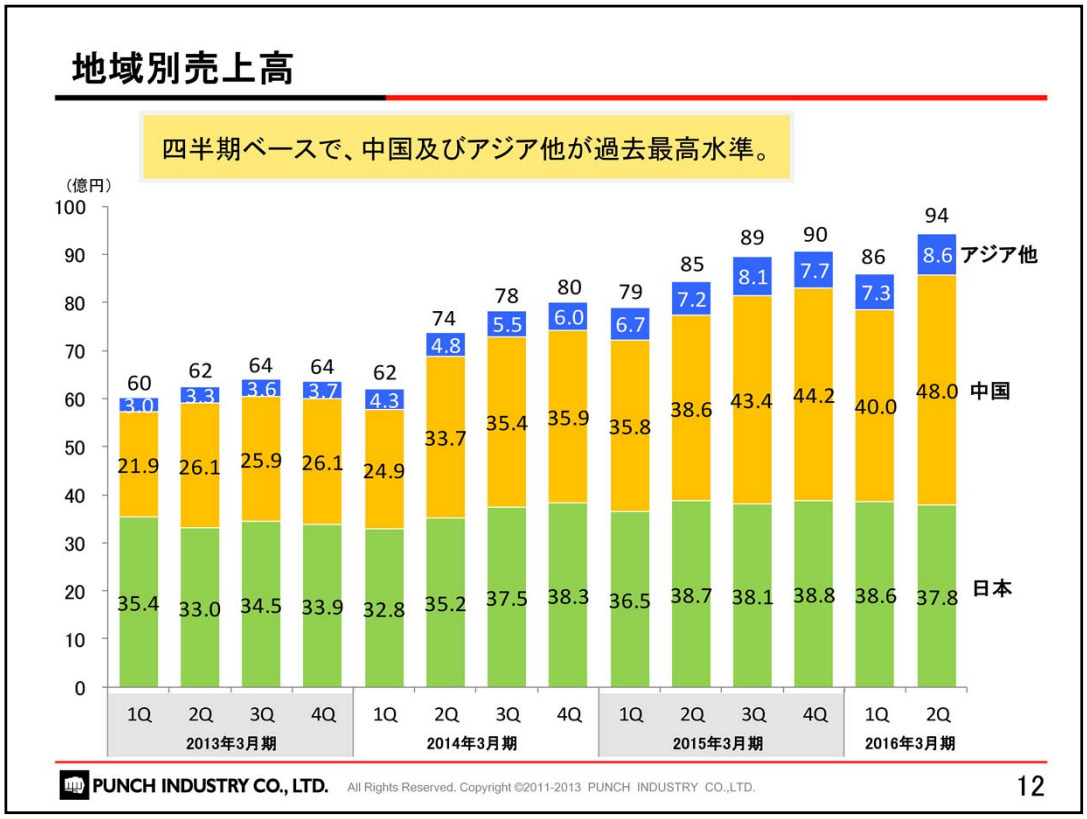
□営業利益は、研究開発投資等の増加により、前年同期とほぼ横ばい、親会社株主に帰属する四半期純利益は、海外での法人税等の影響により、前年同期実績を上回る結果となりました。



□四半期ベースの売上高と営業利益の推移です。

□売上高は、四半期ベースで過去最高を更新しました。

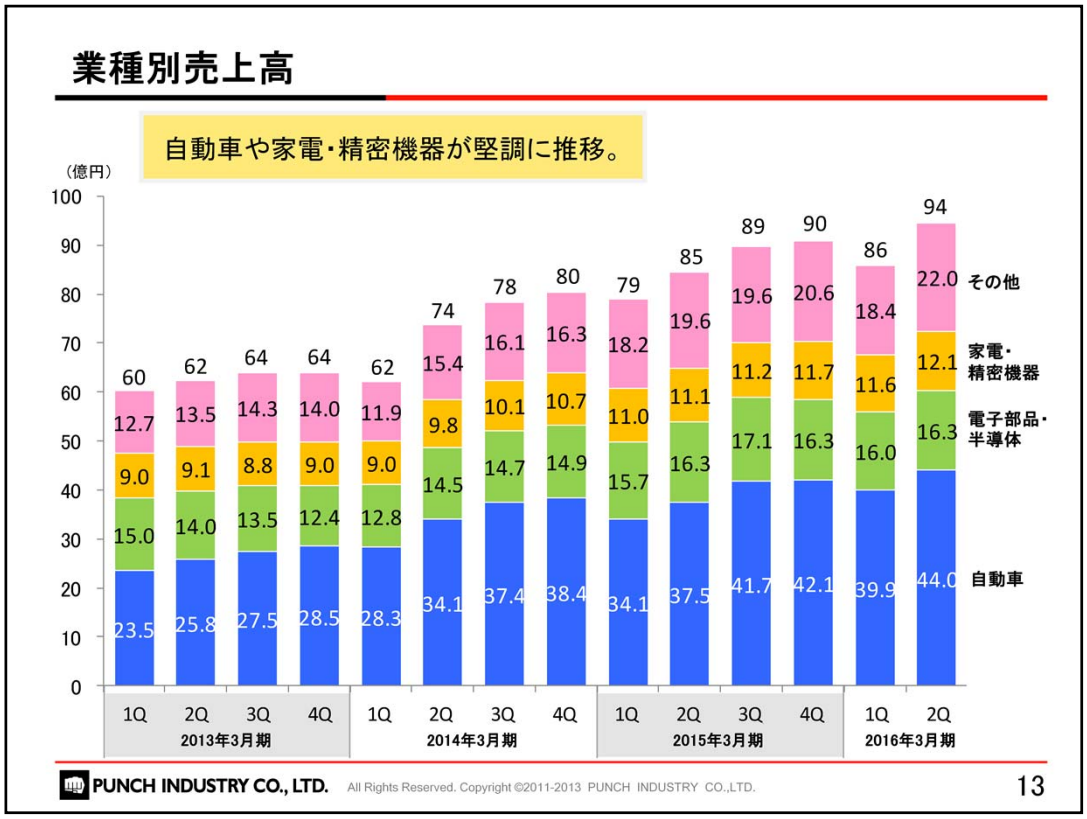
□営業利益は、四半期のみで見ると、前第４四半期は、創業40周年記念配当とあわせ、記念賞与を支給したことや、研究開発投資等を前倒しで実施したことなどで減益となりました。そして、当第２四半期は、研究開発投資に伴う減価償却費増の要因もあり、前第２四半期からは減益、当第１四半期からは横ばいとなっています。



□地域別の売上高です。

□国内は、当第2四半期のみを見ると、前年同期実績には届かず、海外売上でカバーした形となりました。

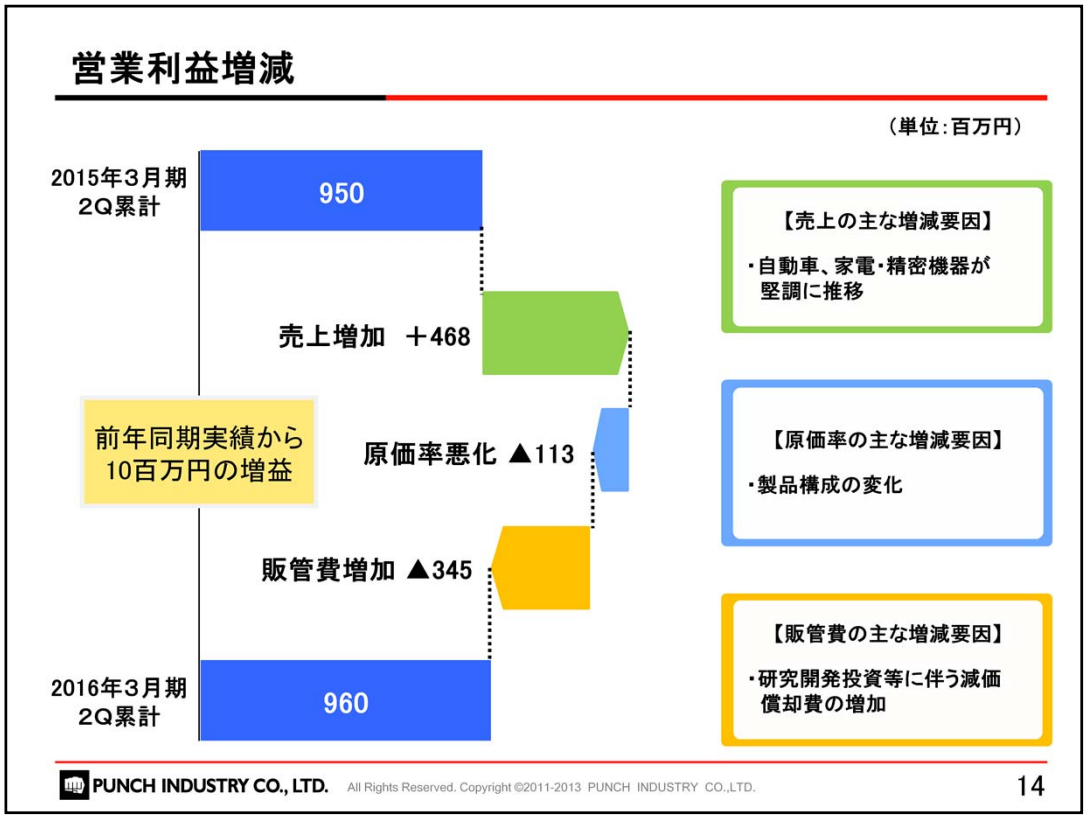
□海外売上は、中国及びアジア他が、それぞれ過去最高を更新し、合計でも過去最高となりました。



□業種別売上高のグラフです。

□自動車や家電・精密機器が堅調に推移し、電子部品・半導体は前年並みを維持しています。

□「その他」は、日中連携による研究開発体制で、日中それぞれの高付加価値製品のラインアップ拡充に取組んでおり、少しずつですが効果が出ています。高付加価値製品1つ1つの売上高は自動車などに比べれば、まだまだ規模が小さいですが、早くこれらを業種別売上高の大項目の1つにできるよう、各施策を強化します。



□営業利益の増減グラフです。

□前年同期実績の9.5億円から、
売上高の増加に伴う利益増が4.6億円、
しかし、製品構成の変化により原価率が悪化し、
また、研究開発投資等の増加に伴う販管費の増加もあり、
9.6億円の実績となりました。

財務状況

（単位：百万円）

	2015年３月期末	2016年３月期 第２四半期末	比較増減
総資産	29,623	28,616	▲1,007
総負債	15,418	13,862	▲1,556
うち有利子負債	7,155	6,695	▲460
純資産	14,205	14,754	548
ネット資金	▲3,853	▲3,763	90
自己資本比率	47.9%	51.5%	3.6ポイント

	2015年３月期 第２四半期累計	2016年３月期 第２四半期累計	比較増減
設備投資額（無形固定資産含む）	575	530	▲44
減価償却費（無形固定資産含む）	618	706	87

PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

□財務状況です。

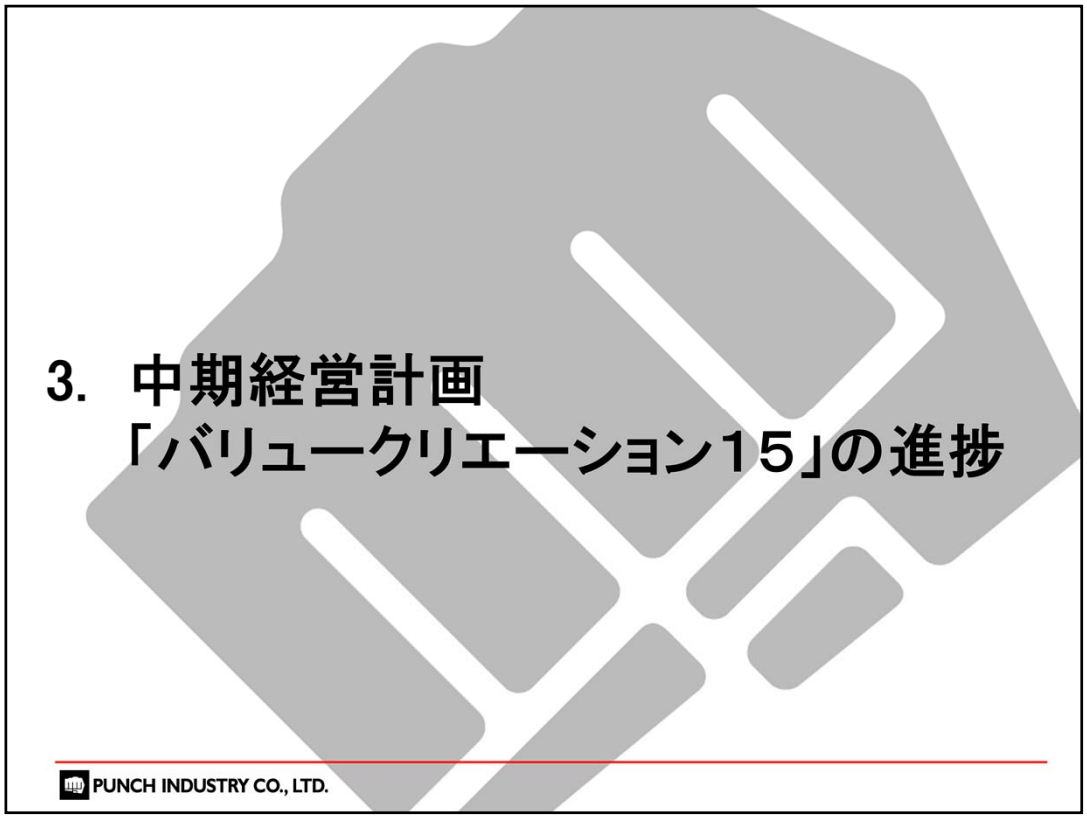
□総資産は、現金及び預金の減少により、10億円減少しました。

□総負債は、借入金の減少により、15億円減少しました。

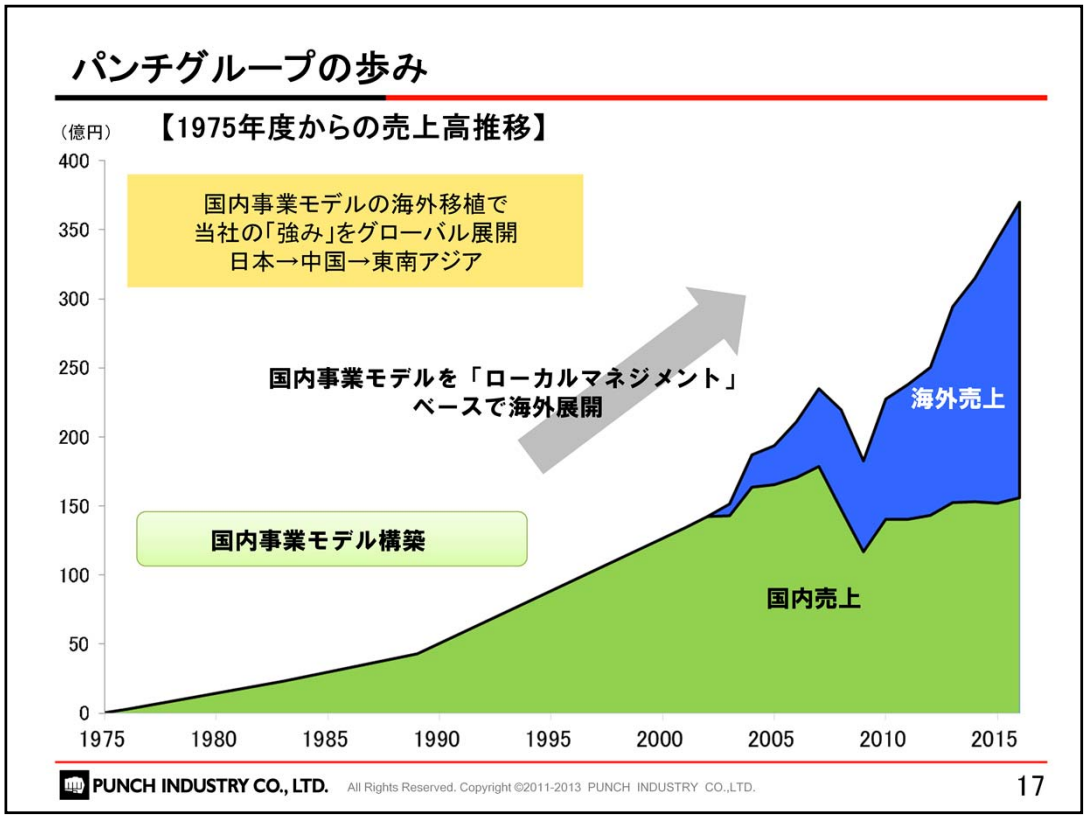
□純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により5億円増加しました。

□自己資本比率は、3.6ポイント改善し、51.5%となりました。

□減価償却費は、研究開発投資等により増加しました。



□中期経営計画「バリュークリエーション15」の進捗状況です。

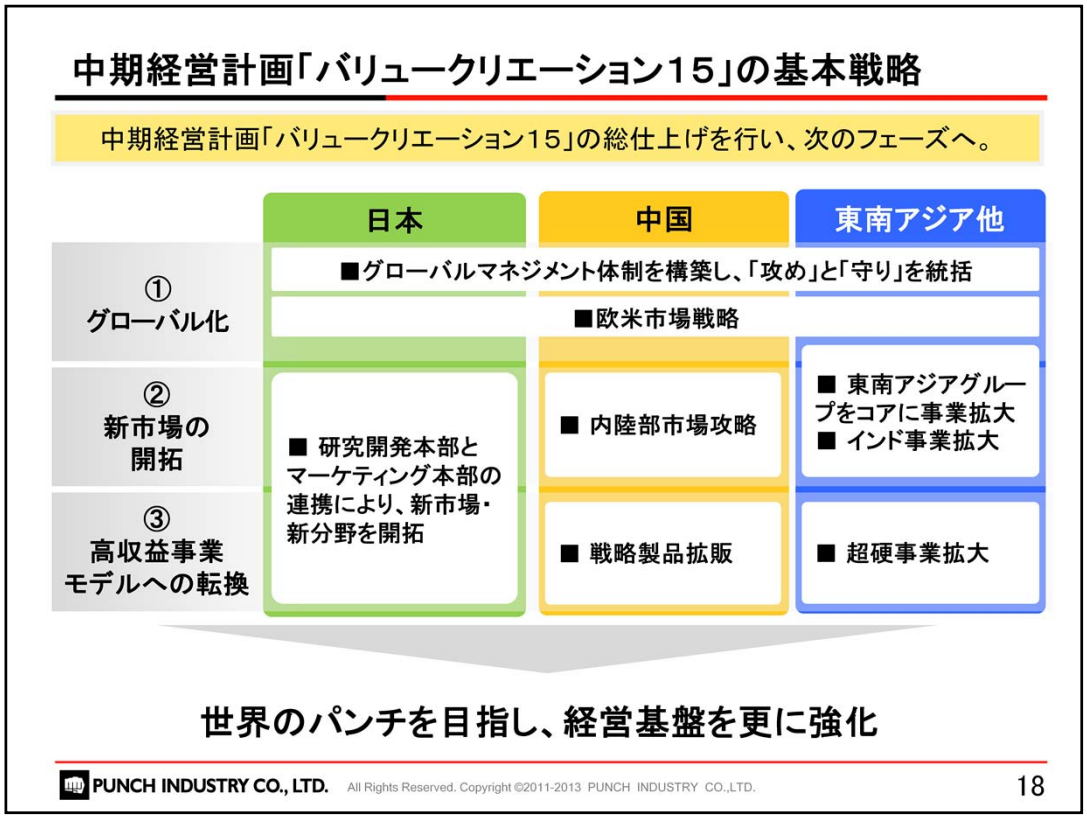


□グループ連結売上高の推移です。

□過去40年を振り返ると、ITバブル崩壊やリーマンショックでの一時的落込みはあったものの、国内での事業基盤をベースに、中国での事業拡大を加え、着実に事業規模を拡大してきました。

□2012年12月の株式上場を機に、パンチグループとしての新たなステージに向けた成長戦略を推進すべく、2016年3月期を最終年度とする3か年の中期経営計画「バリュークリエーション15」を策定し、現在パンチグループ一丸となって取組んでおり、まさに、最後の総仕上げの段階です。

□国内売上に、海外を加え、グローバルに事業展開を進めていくことが「バリュークリエーション15」の骨子です。

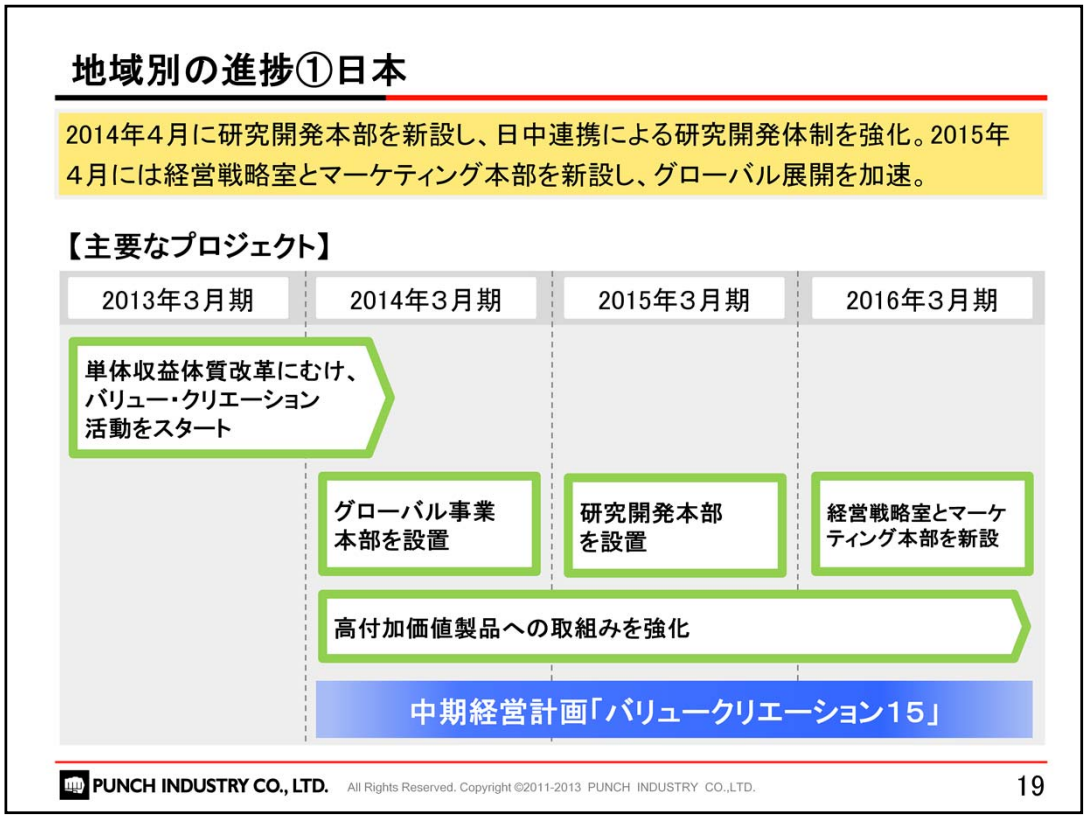


□「バリュークリエーション15」の基本戦略です。

□2013年から掲げている、対処すべき3つの課題、即ち
①グローバル化
②新規分野も含めた新市場の開拓
③高収益事業モデルへの転換
に、攻めと守りの両面から積極的に取組んでいく、というのが根本の考え方です。

□「攻め」については、グローバル視点でのマーケティング戦略で取組んでいます。
「守り」については、グローバルマネジメント体制及び研究開発体制の強化と、
2013年から取組んでいる収益体質改革で、「攻め」をしっかりと支援しています。

□上場3年目、中期経営計画「バリュークリエーション15」の最終年度を迎え、現在
、進捗の最終確認をしていますが、次の成長ステージへのシフトアップも意識し、
最後までしっかり取組みます。

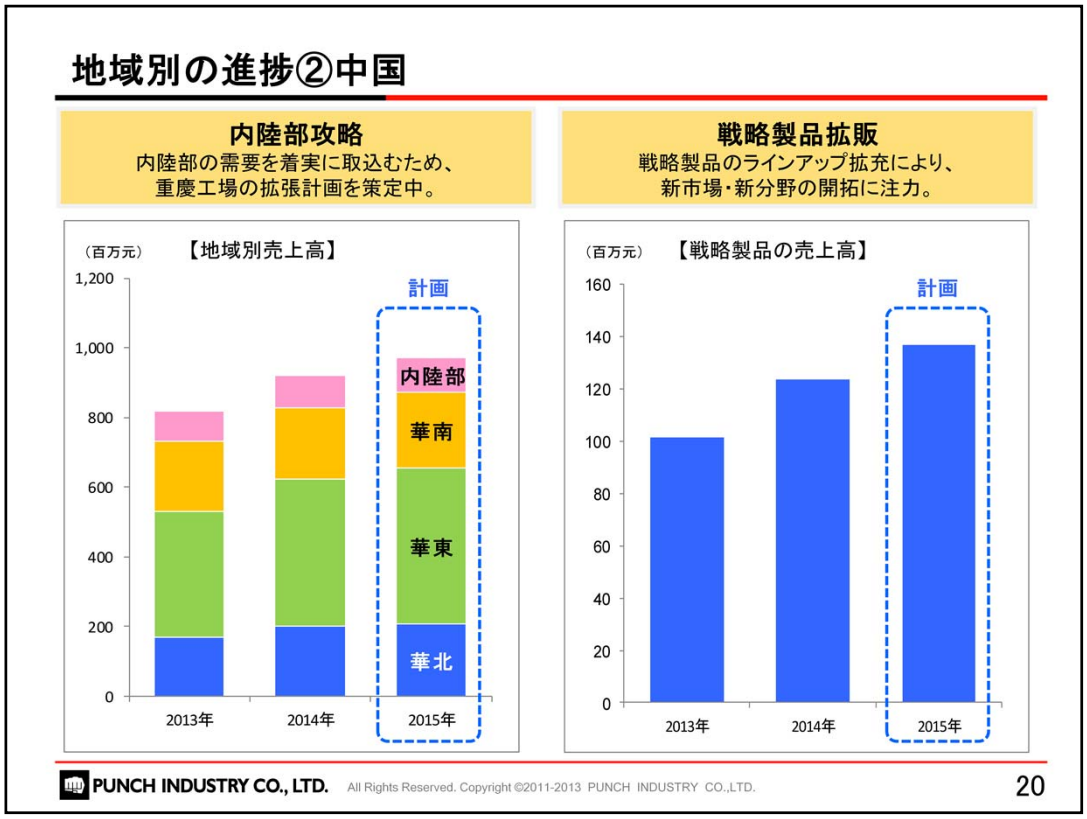


□日本の進捗についてです。

□グローバル展開を更に加速させるため、国内と海外それぞれの役割について見直しを進めました。今後、グローバル拠点が増えていくほど、日本パンチはマザー機能を有する拠点として、創業以来40年にわたり蓄積してきたノウハウや技術等の移植という役割が増します。そのための製販一体の一層の強化が重要となります。

□2015年８月に発表しました来年稼働開始予定のベトナム工場を足掛りに、グローバル生産体制の最適化を進め、日本パンチは、ますます複雑化・多様化・高度化するお客様ニーズに対応するための改革を進めます。

□これらの取組みを担うグローバル人財の育成と確保が急務となっています。社内の人事制度の改革はもとより、海外の現場体験を通して育成する取組みも既に開始しており、今後の「世界のパンチ」を担う人財層の厚みの形成も進めます。

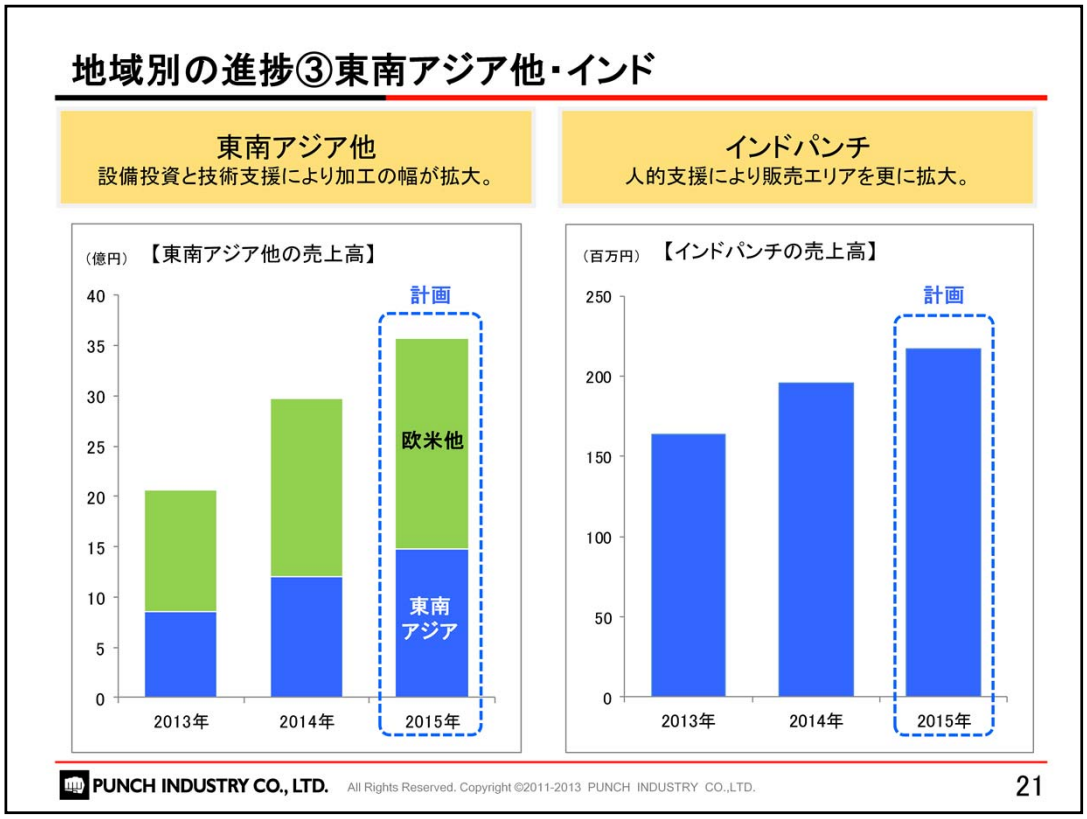


□中国の進捗についてです。

□中国経済動向には先行き不透明感はあるものの、経営環境のところでもお話したとおり、巨大市場が安定成長段階に移行しつつあり、世界の工場から「製造強国」への転換を目指すことで、超精密・超微細な加工の需要が増していくと考えています。設立から25年が経った中国グループは、長年にわたり日本と技術交流をしてきたことで、高い技術力を有しており、「高収益企業モデルへの転換」に取組んでいます。

□「戦略製品」と呼んでいる高付加価値製品のラインアップも拡充しています。
また、一気通貫の生産体制を武器に、航空機関連という新たな分野への参入を視野に入れており、航空機関連以外にも、新たな市場の開拓にも積極的に取組んでいます。

□中期経営計画「バリュークリエーション１５」において、特にパンチグループが重点的に取組んでいる重慶工場については、好調な内陸部需要を着実に取込んでおり、更なる稼働の向上を目的とし、工場の拡張も視野に入れています。



□東南アジア・インドの進捗です。

□東南アジアグループにおいては、東南アジアをパンチグループの大きな柱として1日でも早く育てるため、クロスボーダーでの連携体制の強化に取組んでおり、徐々に販売面、生産面の両方において効果が現われ始めています。

□一方、マレーシアからの欧州等向けの輸出も堅調に推移しており、欧州の展示会に出展したり、昨年代理店契約を締結したドイツ、イギリスも含め、各代理店と引き続き連携を密にし、パンチブランドの拡販を進めていくための同行営業にも取組んでいます。

□2016年稼働予定のベトナム工場は、パンチグループの売上を更に拡大させていくための重要な拠点となります。ベトナムを1日でも早く軌道にのせ、「日本・中国・マレーシア・ベトナム」の4極生産体制の確立を目指します。

□最後に今年で設立5周年を迎えたインドについては、戦略的人員の配置により、販売エリア拡大してきたことで、徐々にお客様の数が増えつつあります。また、インドに本格進出を予定している海外メーカーも増えており、この流れの中で、インドパンチがお客様ニーズにしっかりと対応していくためにも、現在は、更なる販売強化のための人的支援も進め、引き続きじっくりと取組みます。

□2016年3月期の業績予想です。

2016年３月期　業績及び配当の予想

（単位：百万円）

	2015年３月期（実績）		2016年３月期（予想）		前年差	前年比
売上高		34,392		37,000	2,607	107.6%
営業利益	5.0%	1,724	5.4%	2,000	275	116.0%
経常利益	4.7%	1,617	5.1%	1,900	282	117.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	3.5%	1,188	3.5%	1,300	111	109.4%
自己資本利益率（ROE）		10.1%		8.8%	▲1.3ポイント	

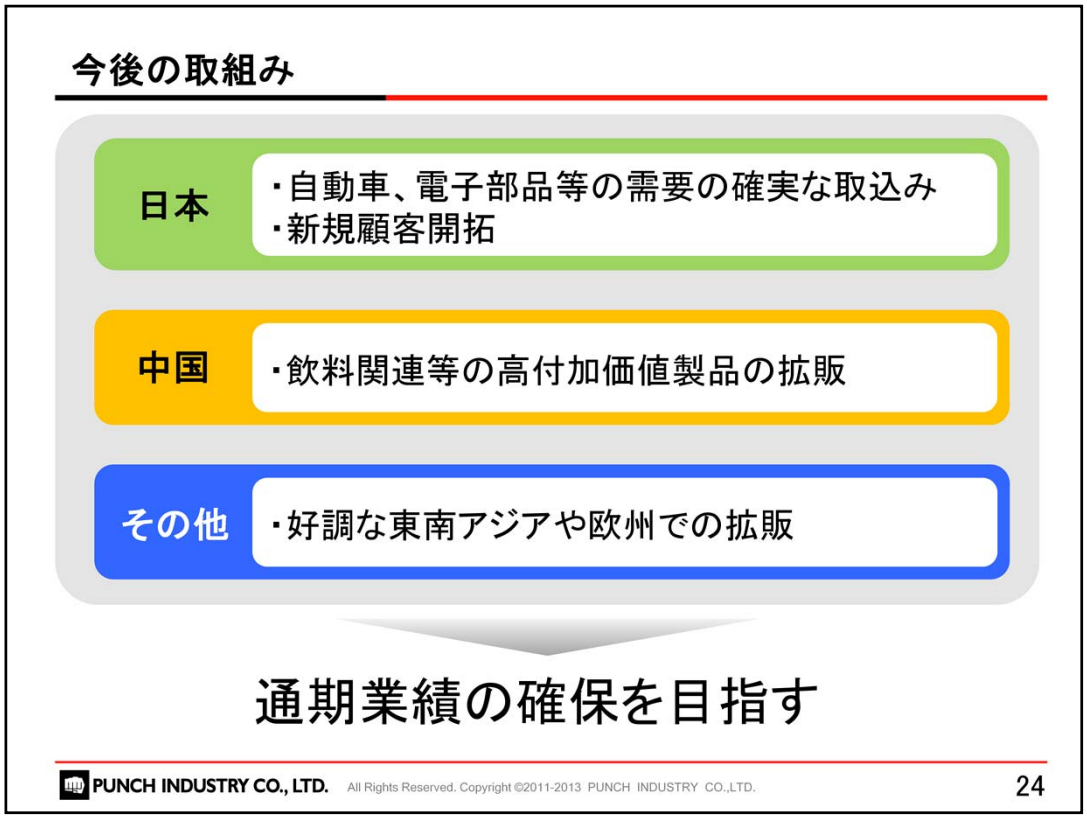
2016年３月期配当	中間配当金12円50銭を実施	年間配当金25円を予定

PUNCH INDUSTRY CO., LTD. All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

□2016年３月期　業績及び配当の予想です。

□2016年３月期の第２四半期は、中期経営計画の目標達成を目指し、パンチグループ全社員が一丸となって取組んだことで、増収増益を維持することができました。

□配当は、中間配当12円50銭を実施し、年間では25円を予定しています。



□今後の取組みです。

□今期業績への影響として、中国の景気減速など外部環境に様々な変化はあります。しかし、ものづくりの会社としてやらなければならないことが変わるわけではありません。

□日本では、自動車、電子部品等の需要の確実な取込みや、新規顧客開拓の推進による売上の確保を図るほか、中国では、飲料関連等、景気変動影響を受けにくい分野を更に強化します。そして、好調な東南アジアや欧州での拡販を継続します。

□既存分野の売上確保に加え、新たな高付加価値製品へのシフトを加速させ、第3四半期以降も業績確保に向けて、グループを上げて取組みます。

■各資料につきましては、弊社Webサイトよりご覧ください。

◆決算短信

http://www.punch.co.jp/ir/library/tanshin.html

◆決算説明資料

http://www.punch.co.jp/ir/library/setsumei.html

5. 参考資料

PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

会社概要

会社名	パンチ工業株式会社
本社所在地	東京都港区港南二丁目12番23号
設立	1975年３月
資本金	28億9,773万円
従業員数	3,803名（グループ連結、2015年９月末現在）
生産拠点	北上工場（岩手県北上市） 宮古工場（岩手県宮古市） 兵庫工場（兵庫県加西市）
グループ会社	株式会社ピンテック（山形市） 盤起工業（大連）有限公司（中国） 盤起工業（瓦房店）有限公司（中国） 盤起工業（無錫）有限公司（中国） 盤起工業（東莞）有限公司（中国） 盤起弾簧（大連）有限公司（中国） PUNCH INDUSTRY INDIA PVT. LTD.（インド） PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD.（マレーシア・ペナン） PANTHER PRECISION TOOLS（KL）SDN. BHD.（マレーシア・クアラルンプール）※ PUNCH INDUSTRY SINGAPORE PTE. LTD.（シンガポール） PUNCH INDUSTRY VIETNAM CO. LTD.（ベトナム） PT. PUNCH INDUSTRY INDONESIA（インドネシア）

※PANTHER PRECISION TOOLS (KL) SDN. BHD. は、PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD.に事業を移管したため、清算手続中であります。

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

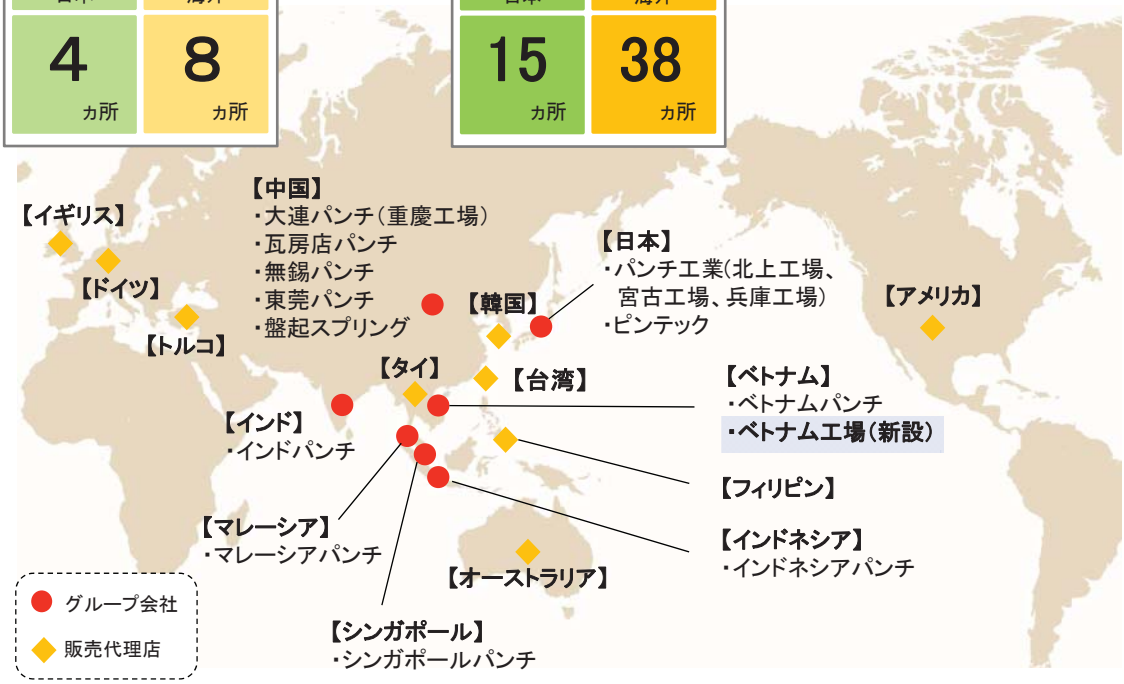
パンチグループのネットワーク

生産拠点数

日本	海外
4 カ所	8 カ所

販売拠点数

日本	海外
15 カ所	38 カ所



All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

沿革

PUNCH INDUSTRY

パンチ工業株式会社

- 2015年11月、ベトナムに製造拠点設立（予定）
- 創業40周年

2015

- 東京証券取引所市場第一部銘柄に指定

2014

- パンサー社(現:マレーシアパンチ)を完全子会社化
- インドネシア合弁会社設立

2013

- 東京証券取引所市場第二部上場

2012

2011

- インドに販売拠点設立

2010

2002

- 中国国内で金型用部品販売を開始

2001

- 中国国内に販売拠点設置

1990

- 中国大連に製造拠点設立

1989

- 宮古パンチ工業（現:宮古工場）設立

1983

- 北上工場設置、金型用部品の全国販売を開始

1982

- プラスチック金型用部品に進出（ハイスエジェクタピンの量産化に成功）

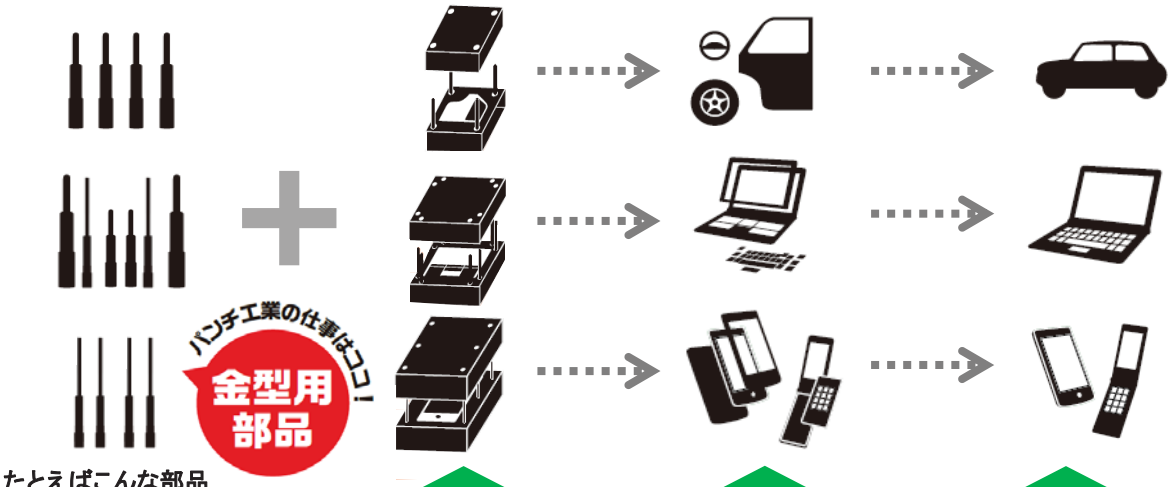
1975

- 創業、プリント基板用穴あけピン製造

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

事業内容

金型を構成するために、なくてはならない多種多様な精密部品の製造・販売



たとえばこんな部品

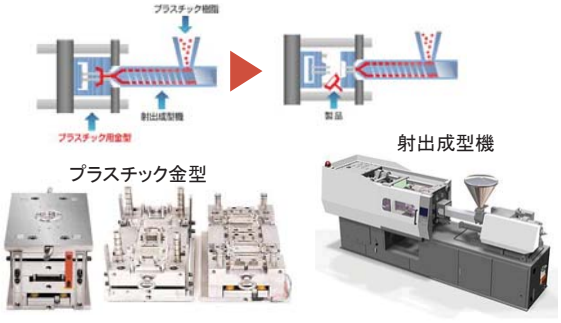
金型
構成部品を速く、均一に、大量につくるための金属でできた「型」

構成部品
製品を構成するために必要となるパーツ

製品
自動車や家電など私たちが身近で使うさまざまな製品

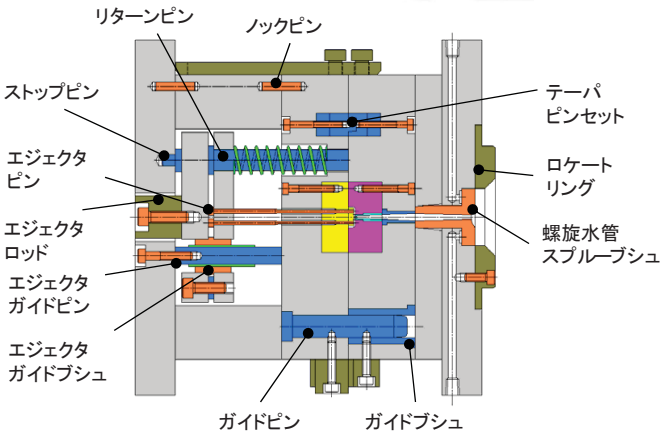
All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

プラスチック金型と金型用部品



エジェクタピン

スプルーブシュ・ロケートリング



●プラスチック金型用部品について

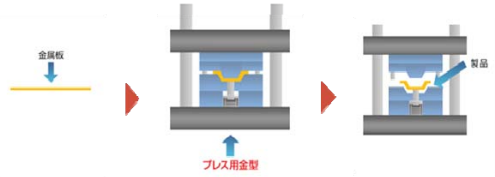
プラスチック金型とは、携帯電話やデジタルカメラの外装など、多くのプラスチック製品の製造に用いられる金型であり、加熱溶融したプラスチック樹脂を、射出成型機に実装された金型に注入し、冷却、固化することにより製品が作られております。

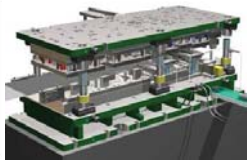
当社グループでは、広範なプラスチック製品の射出成型用金型に組み込まれるエジェクタピン、スプルーブシュ等のプラスチック金型用部品の製造・販売を行っております。

エジェクタピン・・・	成型品を金型から離し、突き出すための部品
スプルーブシュ・・・	射出成型機の射出ノズルから溶融したプラスチックを金型へ流し込むための部品

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

プレス金型と金型用部品

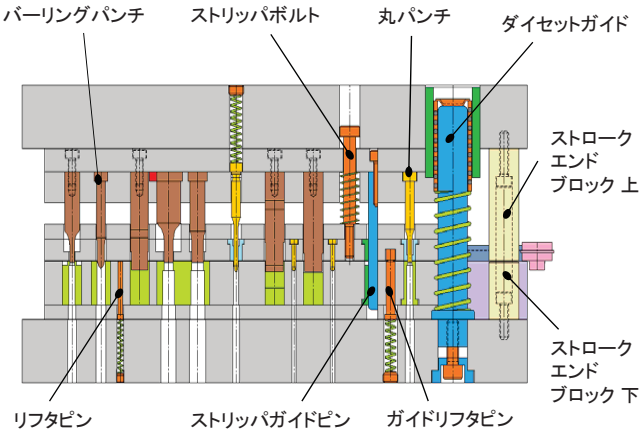




プレス金型

パンチ

ダイセットガイド



●プレス金型用部品について

プレス金型は、プレス機（上下運動する機械）に金型を装着し、上下に分かれた金型の間に材料（金属の鋼板）を入れ、プレス機を稼働することにより、金型で型どられた製品が出来上がります。

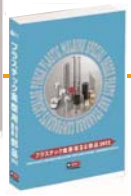
当社グループでは、自動車、家電、精密機器などを大量生産するために必要な、プレス加工で使用される金属の鋼板を打ち抜く際に使用するパンチ・ダイ部品、金型の上下の動きを保持するガイド部品等のプレス金型用部品の製造・販売を行っております。

パンチ・・・・・・・・・・	パンチは材料に推しつけて使われる工具で、通常はダイと対で使われ、材料に穴をあけたり、形状を転写する部品
ダイセットガイド・・・	上型と下型の関係を正しく保つために使用する部品

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

パンチグループの強み

お客様に高い満足度を提供



カタログ品

汎用性の高い標準製品を
豊富にラインナップ

**スピーディな
ソリューション**

特注品

カスタムニーズにも
柔軟に対応

一気通貫の生産体制
1,700台の設備で幅広い対応力

お客様密着型の営業体制
きめ細かな対応・提案力

高い技術力
創業以来培ったノウハウとたゆまぬ研究開発

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

CSR経営と企業ビジョン

CSR経営

世界のものづくりを支える企業であり続けるために
CSR経営を実行しています。

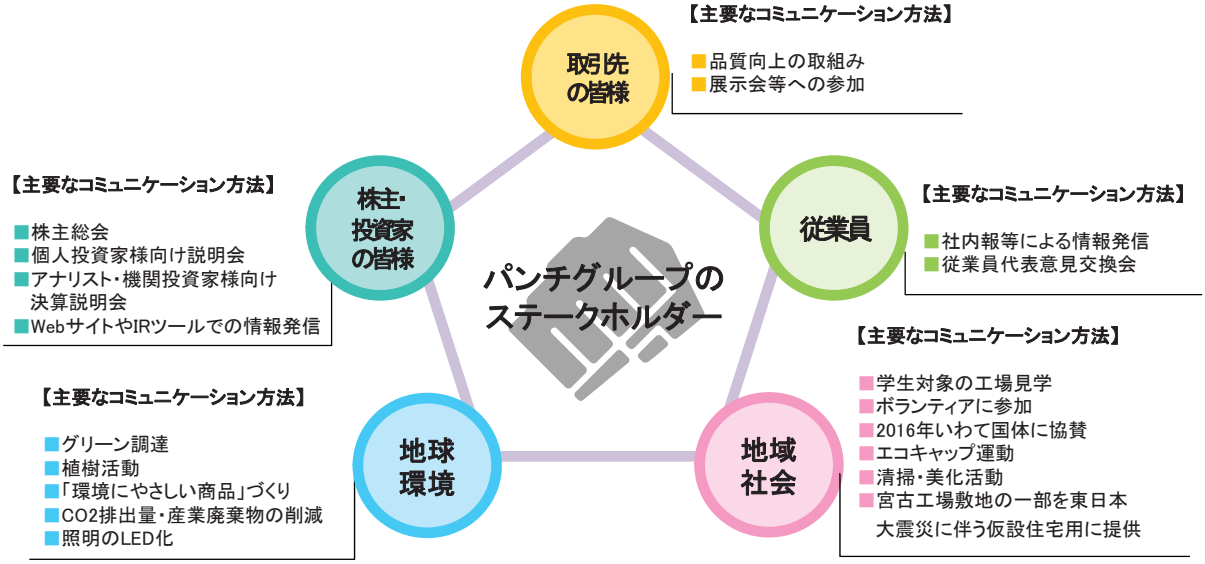
企業ビジョン

世界のパンチへ

金型部品業界での
トップブランドを確立し
製販一体企業としての
優位性を活かした
高収益企業を目指す

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

ステークホルダーとのコミュニケーション



【主要なコミュニケーション方法】
- 品質向上の取組み
- 展示会等への参加

【主要なコミュニケーション方法】
- 株主総会
- 個人投資家様向け説明会
- アナリスト・機関投資家様向け決算説明会
- WebサイトやIRツールでの情報発信

【主要なコミュニケーション方法】
- 社内報等による情報発信
- 従業員代表意見交換会

【主要なコミュニケーション方法】
- グリーン調達
- 植樹活動
- 「環境にやさしい商品」づくり
- CO2排出量・産業廃棄物の削減
- 照明のLED化

【主要なコミュニケーション方法】
- 学生対象の工場見学
- ボランティアに参加
- 2016年いわて国体に協賛
- エコキャップ運動
- 清掃・美化活動
- 宮古工場敷地の一部を東日本大震災に伴う仮設住宅用に提供

決算説明会の様子

個人投資家様向け会社説明会の様子

植樹活動の様子

エコキャップ運動

【環境にやさしい】マーク

All Rights Reserved. Copyright ©2011-2013 PUNCH INDUSTRY CO.,LTD.

本日は、誠にありがとうございました。

【IRに関するお問い合わせ先】 パンチ工業株式会社　総務部コーポレート課　電話：03-5460-8237　e-mail：info-corp@punch.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】
本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。